



TATEYAMA CITY MUSEUM and SHIROYAMA PARK



交通のご案内

【館山市立博物館本館・館山城】

館山駅 JRバス「洲崎方面」10分
日東交通「館山航空隊」10分

富津館山道路富浦ICから約20分
駐車場あり
(大型・マイクロバスは時期により有料)

【“渚の駅”たてやま】

館山駅 西口より徒歩15分

富津館山道路富浦ICから約15分
駐車場あり

【赤山地下壕跡】

館山駅 JRバス「洲崎方面」10分
日東交通「館山航空隊」10分

富津館山道路富浦ICから約20分
駐車場あり



館山市立博物館 294-0036
Tateyama City Museum 千葉県館山市館山 351-2 (城山公園内)
TEL:0470-23-5212 FAX:0470-23-5213

開館時間 午前9時～午後4時45分

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日休館)
年末年始

観覧料 大人 400円(300円)
小人 200円(150円)

() 内は、20名以上の団体料金

※本館・八犬伝博物館(館山城)が見学できます。

※特別展開催中は観覧料が変わります。

城山公園に関するお問い合わせ

館山市都市計画課
294-8601
千葉県館山市北条 1145-1
TEL:0470-22-3610 FAX:0470-23-3116

博物館に関するお問い合わせ

館山市立博物館
294-0036
千葉県館山市館山 351-2
TEL:0470-23-5212 FAX:0470-23-5213

みなとオアシス

“渚の駅”たてやま

名誉駅長：さかなクン

【渚の博物館】

午前9時～午後4時45分
休館日：毎月最終月曜日 年末年始
(祝日の場合開館し、翌日休館)

【1F 海のマルシェたてやま】

午前9時～午後6時
原則年中無休
TEL:0470-28-4926

【海辺の広場】

午前9時～午後4時45分
休館日：毎週月曜日 年末年始
(祝日の場合開館し、翌日休館)

【2F 館山なぎさ食堂】

午前10時～午後6時
原則年中無休
TEL:0470-28-4927



渚の博物館



“渚の駅”たてやま 海辺の広場

国指定重要有形民俗文化財の「房総半島の漁撈用具」や県有形民俗文化財の「房総半島の万祝及び製作関連資料」を中心に、房総の漁業に関する文化や漁民の生活を紹介しています。

大きな水槽に魚たちがいっぱい「海辺の広場」、館山湾が一望でき、潮風を感じられる「展望デッキ」など館山湾の豊かな自然を体験できます。ほかにも、客船ターミナル、レストラン、お土産などの魅力あふれる海辺の施設です。

“渚の駅”たてやまに関するお問い合わせ

館山市経済観光部みなと課

294-0036
千葉県館山市館山 1564-1
TEL：0470-22-3606

館山海軍航空隊

赤山地下壕跡

【利用案内】

開壕時間：午前9時30分～午後4時(受付は、午後3時30分まで)

休壕日：毎月第3火曜日 年末年始

入壕料：大人200円(150円)・小人100円(50円)

() 内は、20名以上の団体料金です。

赤山地下壕跡は全長が約1.6kmと、全国的にみても大きな壕で、館山市を代表する戦争遺跡の一つです。

赤山地下壕跡に関するお問い合わせ

予約：豊津ホール
294-0033
千葉県館山市宮城 192-2
TEL：0470-24-1911

問い合わせ：館山市生涯学習課
294-0045
千葉県館山市北条 740-1
TEL：0470-22-3698

里見氏の遺産 館山城跡（城山公園）



城山公園花カレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
梅			さつき						さざんか		
水仙	寒桜	かんひの桜	染井吉野	八重桜	あじさい			つわぶき 水仙			
椿			つつじ		菖蒲		椿				

1 館山市立博物館本館

3 つつじ園



頂上西側斜面には、オオムラサキ・クルメツツジなどの赤・白・ピンクの約6千本が植えられています。

5 茶室「雁月庵」



茶室の隣の日本庭園は、無料でご見学いただけます。
※茶室「雁月庵」の利用は、事前予約が必要です。
(有料)

2 八犬伝博物館（館山城）

4 八遺臣の墓（ウバガミサマ）



室町時代の五輪塔。江戸時代初期に倉吉で里見忠義に殉じた家臣の供養塔という伝承もあります。

6 孔雀園



孔雀、キバタイコなどが飼育されています。
6月頃には花菖蒲が見頃をむかえます。

7



恋人の聖地
鏡ヶ浦から富士の見えるまち 館山

城山公園の展望エリアは、聖地スポットとなっています。



館山城望楼からの景色

城山公園は、戦国時代の武将である房総里見氏の9代義康・10代忠義が居城とした館山城跡を整備した公園です。館山城は、慶長19年（1614）、10代忠義が倉吉（鳥取県）へ移封となった際に破却となりました。現在は、椿・梅・桜・つつじ等の花木が、季節に合わせて咲き誇る公園として市民や観光客に憩いの場所として親しまれています。



館山市坂井翁作古墳出土
環頭・圭頭大刀と復元模型



水岡やぐら (レプリカ展示)



里見義弘奉納棟札
(鶴谷八幡宮蔵)



錦絵「里見義弘相州城ヶ島にて北条と戦う図」



里見義頼の朱印状



市指定文化財 万人講帳 (高瀬家文書)
(中村雄一氏蔵)



忍藩北条陣屋の陣鐘



民俗展示室

歴史展示室

原始・古代から江戸時代までの安房の歴史を紹介しています。三方を海に囲まれたこの地域は、古代から海を通じた他地域との交流が積極的に行われていました。鎌倉時代には、幕府の置かれた鎌倉の経済や文化の影響を強く受けています。室町時代になると安房に進出した里見氏が治めるようになります。

その後里見氏は、戦国大名として成長し、水軍を組織し、最盛期は下総まで進出します。江戸に幕府が置かれた後も外様大名として安房で勢力を維持し、慶長十九年(一六一四)に倉吉(鳥取県)へ国替えを命じられるまで、十代一七〇年にわたり安房を治めました。里見氏の国替え後、館山城は破却され、以後江戸時代の安房は小規模な大名領や旗本領、幕府の直轄領が入り組む地域となりました。幕末になると、東京湾入口に位置する安房は、海防上重要な役割を担っていきます。

民俗展示室

安房地方の民家は、南向きに母屋を建て、左に馬屋をかねた物置や長屋門、右に堆肥小屋を建てるコの字型の屋敷構が一般的です。母屋は、炊場を切り離して別棟とする分棟型民家で、温暖な地域に見られる民家の特徴があります。展示室では、市内の畑地区にある三〇〇年前の分棟型民家を再現して展示しています。民具や農具は、直接手で触れることが出来ます。

岩崎巴人記念室

館山市名誉市民である日本画家の岩崎巴人画伯が描いた水墨画の世界を紹介します。※企画展等により展示していない場合があります。

企画展示室

さまざまなテーマによる企画展・特別展を行います。

甲冑を着よう

日曜日・祝日には、ミュージアムサポーター「甲冑士」が、甲冑の着付けと解説を行っています。ずっしりと重い甲冑を身につけ、戦国武将になりきってみましょう。



甲冑着用体験



岩崎巴人画「春鳥椿図」

八犬伝博物館（館山城）



犬山道節忠与 (いぬやまどうせつただとも) 犬川莊助義任 (いぬかわさけよしとう) 犬江親兵衛仁 (いぬえしんべえまさし) 犬飼現八信道 (いぬかいげんぱちのぶみち)



犬坂毛野胤智 (いぬさかけのたねとも) 犬村大角礼儀 (いぬむらだいかくまさのり) 犬塚信乃成孝 (いぬづかしのもりたか) 犬田小文吾悌順 (いぬたこぶんごやすみり)

※展示資料は変更することがあります。



『南総里見八犬伝』 版本106冊



NHK 人形劇「新八犬伝」 「信乃・伏姫・道節」 辻村ジュサブロー作



曲亭馬琴肖像 『戯作六家撰』 所収



NHK 人形劇「新八犬伝」 放送台本 (第1回・最終回)



駿河 夙 「道節」 三代目 夙八 (加藤辰三郎) 作



錦絵「芳流閣両雄動」 月岡芳年画



引札「萬魚類乾物卸小うり」

八犬伝博物館（館山城）

里見氏の最後の居城である館山城跡に建てられた、ロマンあふれる天守閣形式の博物館です。建物の外観は、檜に入母屋の大屋根をかけ、小望楼を乗せたもので、里見氏が活躍した時代の様式を参考にしています。『南総里見八犬伝』に関する資料を展示し、望楼からは鏡ヶ浦（館山湾）を中心とした市街地が一望でき、天気の良い日には富士山や三浦半島を望むことができます。

南総里見八犬伝

江戸時代の作家・曲亭馬琴が著した長編伝奇小説です。房総里見氏の歴史を題材に創作したもので、全九輯九十八巻一〇六冊からなります。文化十一年（一八一四）に八犬伝の第一輯を出版、二十八年の歳月を費やして天保十二年（一八四一）に書き上げたとき、馬琴はすでに七十四歳となっていました。

第一輯から、大人気となり、歌舞伎としても上演されたほか、錦絵や絵草紙も数多く出版されました。現在でも、テレビや映画、漫画などで、取り上げられるほど多くの人々に親しまれています。

【あらすじ】

戦に敗れ、安房国に逃げのび、滝田（南房総市三芳地区）の城主となった義実（安西景連）に攻められて籠城します。八房は、義実の冗談、「安西の首を取つて来たら、娘の伏姫をお前の嫁にやる」とを真に受けその言葉通りに安西を討ち、伏姫は約束を守り八房と富山（南房総市富山地区）の洞穴で暮らすことになりました。義実の家来で伏姫の許嫁であった金碗大輔は、伏姫を救うため八房を銃で撃ちますが、誤って伏姫も死なせてしまいます。このとき、伏姫が持つ数珠から、仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌の文字の浮かび上がった八個の玉が、飛び去りました。やがて、各地に飛び去った玉と牡丹の形あざを持つ里見家を守る運命の八人の若者が現れます。出家した大輔は、八人の若者を探す旅に出ました。若者たちは運命に導かれて、里見家のためにひとつとなっていくます。